

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に係る面談

2. 日時：令和3年9月30日(木) 10時15分～11時50分

3. 場所：原子力規制庁6階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

岩永企画調査官、澁谷企画調査官、知見主任安全審査官、久川係員
大辻室長補佐、高木技術参与(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力規制事務所(テレビ会議システムによる出席)

木村原子力運転検査官、黒川原子力運転検査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当7名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業について、資料に基づき以下の説明があった。
 - スラリー移替え作業の進捗状況と作業環境測定結果について
 - 今後の対応について
- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認し、以下のコメントを行った。
 - 移替え元 HIC 内底部の拔出配管周囲のスラリーは抜き出すことができた判断した理由について、移替え先の HIC 内の写真のほか、スラリー移送時の SEDS の線量データ等を示した上で、その根拠を説明すること。
 - HIC 底部の凸構造等、HIC 内の構造について詳細を示すこと。
 - 今後の対応として、移替え元 HIC に残ったスラリー(以下「残スラリー」という。)の抜き出しを計画しているが、未だに高線量 HIC 内のスラリーの移替え作業を実施できていないことから、積算吸収線量を超過した高線量 HIC の漏えいリスクとの優先度を比較した上で、今回の低線量 HIC 内の残スラリーを抜き出す必要性を明確に示すこと。
 - 低線量 HIC 2 基目の選定について、過去の HIC 内スラリーの採取実績からスラリー量が多いと推定される代替 HIC を新たな候補として挙げているが、当該 HIC 内スラリーについて、Sr-90 の濃度や炭酸塩スラリーの密度等、過去の採取時に得られたデータを示すこと。
- また、原子力規制庁は、今回の低線量 HIC 内スラリー移替え作業で得られた知見等とともに、今後の対応を検討するにあたって確認すべき事項等を整理した上で、今後の計画及び安全対策等を改めて説明するよう求めた。
- 東京電力から、上記について了解した旨の回答があった。

6. その他

資料：HIC スラリー移替え作業の状況